

ガイドボランティア活動記録(平成 21 年)

山本昌生

当園では平成 13 年 3 月 24 日から大温室などの温室植物を中心としたガイドボランティアを導入した。今回は前号(第 30 号)に続いて、その後の活動や進展について報告する。

導入の経緯については平成 13 年度栽培記録(第 23 号)に記している。

活動中のガイドボランティアは 67 名(平成 21 年 12 月現在)で、内訳は表 1 のとおりである。男性が 30 人、女性は 36 人とほぼ半々の割合であり、30 歳代から 80 歳代までの方が登録している。60 歳代が男性・女性とも最も多く全体の 60%を占めている。平成 12 年に募集した 1 期生は、当初 40 人いたが、現在は 15 人に減少している。

ガイド活動は定期ガイドとしてベゴニア温室、大温室などの温室と屋外の花の進化園、ロックガーデンを毎週土曜日と日曜日、イベント時の祝日に実施し、季節に応じてサクラやバラ、ハナショウブ、アジサイなどを案内している。このほかに申込ガイドとして学校の自然体験学習や公民館、老人会、観光ツアー会社などからの申込ガイドに対応した(表 2)。

また、8・9 月と 12 月に開催した夜間開園では夜の植物を案内した。特に 8・9 月にはサガリバナ、オオオニバス、ゲッカビジン、ヤコウボクなど夜に開花(香る)する植物などをガイドした。

昨年度まで樹木ウォッチングとして開催していた園内の植物観察は、季節の花さんぽとして毎月第 2 火曜日と第 4 土曜日の月 2 回実施した(表 2)。

組織作りと自主運営について

平成 19 年度に発足したガイドボランティアの会は、平成 20 年度から例会前と後のリーダーズ会議や例会時の班会議でガイド方法や研修会などを企画し実施している。4 月の例会を総会とし、各班で新

しい班長・副班長を選び、代表、副代表などのリーダーズを決定した。また、班編制について班ごとでメンバーが固まり、交流しにくいという意見もあり、今後規約の改正も含めて組織作りについて検討する必要がある。

当番の割り当てと担当場所の設定について

平成 20 年度から、記入方法を簡素にし、直前でも希望の日に担当できるように試行した。その結果、転記ミスや当日の変更、欠席も減少し、当番表作成担当の負担も軽減できた。当日の担当場所はミーティングリーダーが、希望を聞きながら割り振りを行うことにより、解決している。また、開花状況やイベントを確認するなど自主的かつ活発に行われるようになった。

例会と研修について

偶数月にボランティア活動の報告・協議を行う例会を午前 10 時から 12 時まで開いた。4 月の例会は、総会として役員選定や規約確認、事業報告、会計報告があり、新年度の事業計画、予算が承認された。12 月の例会は、忘年会を兼ねた交流会とし、お弁当を食べながら自己紹介や抱負、感想を話しあった。

また、昨年度は例会時の研修を植物公園の職員により 30 分間ほど不定期に行ったが今年度は協議事項が増えたため、研修は韓国旅行記とジュニアプロジェクト実習の 2 回だった(表 3)。しかし、バラ、ハナショウブなど園内の植物については別に研修を設けて実施した(表 3)。

園外の研修は、ボランティア同士の親睦を兼ねて、4 月に佐伯区湯来の石ヶ谷峽を訪れ、コウヤミズキなどの野生植物を観察した。野生植物を観察する園外研修を充実するため東広島市の大芝島、北広島町の八幡湿原、廿日市市の宮島などの植物を観察した(写真 1・表 3)。情報提供として不定期にガイドボランティア通信を発行した(表 3)。

表 1. ガイドボランティアの年齢及び性別構成

年齢	人数	男性	女性
30 歳代	2	1	1
40	4	2	2
50	9	1	8
60	40	17	23
70	9	7	2
80	3	2	1
合計	67	30	37



写真 1. 園外研修(宮島)

自主活動について

5月4日（みどりの日）・5日（こどもの日）と10月の「秋のグリーンフェア」及び11月3日の植物公園開園記念日にガイドボランティアコーナーを設け、入園者に活動をアピールし、竹馬体験、どんぐりの試食、手作り苔玉販売などを行い好評だった。平成18年4月から毎週行っている屋外植物の開花調査は、有志により継続し、そのデータを例会のミーティングに活用している。入園者へのサービス向上のため平成19年12月から開始した入り口のインフォメーションコーナーは、見頃の花情報などのきめ細かい案内を行い、さらにガイドを各温室などで実施していることを紹介している。

秋のグリーンフェア2009実行委員会に参加し、各種のイベントに企画段階から協力した。大温室内に設置されている地上約10mの管理道を参加者に案内するイベントでは、案内する職員の補助を行った。また、平日の入園者増加対策とサービスのため、グリーンガイドツアーを開催し、バラや三大紅葉樹などの園内の見どころを案内した。

自主グループの活動として、植物公園近くの中国自然遊歩道（荒谷林道）の植物を定期的に調べ、標本及び植物リストを作成し、その成果を植物公園紀要第27号に発表した。

ジュニア・プロジェクトと名付けた子供向けのネイチャーゲームプログラムを作成し、親子植物体験教室や広島市内の小学校を対象に実施し、好評だった（写真2）。

平成15年度から始まった樹木ウォッチングは、かなり専門的な内容になってきて、初心者が参加しにくいという意見があることから、季節の花さんぽとタイトルを変更し、園内を歩きながら見頃の花を広く案内するようにした。親子連れなど新しい参加者も増えている。

調査活動として、国立科学博物館筑波実験植物園の樹形研究会から呼びかけのあったフェノロジー（樹木観察）に調査協力した。これは、特定の樹木の出芽、展葉、開花、結実などの様子を1年間継続して観察し、最終的に樹木観察図鑑としてとりまとめるものである。ガイドボランティアとして全員参加ではなく興味があり継続できるメンバーが参加することとし、園内の樹種を選定し、毎週観察を続けた。しかし、とりまとめ役の方が体調不良となったため観察の継続が難しく、今後これまでのデータを取りまとめる予定である。また、植物多様性保全



写真2. 親子植物体験教室のネイチャーゲーム指導

表2. 定期ガイド・申込ガイド実績表（平成20年度・21年度）

年／月	定期ガイド*1										申込ガイド*2		合 計
	温室				屋外			小計	樹木ウォ ッチング*5 / 季節の 花さんぽ	計	件数	人数	
	日数 (日)	ベゴニア 温室	大温室*3	フクシア 温室	花の 進化園	ロック ガーデン	その他*4						
平成 20 年 4～12 月小計*	83	2,140	4,762	2,743	1,862	1,427	1,165	14,099	307	14,406	20	342	14,748
平成 21 年 1 月	8	186	252	173	110	71	0	792	20	812	1	27	839
2 月	8	345	501	343	282	440	20	1,931	49	1,980	0	0	1,980
3 月	9	242	589	314	206	244	16	1,611	72	1,683	6	103	1,786
平成 20 年度合計	108	2,913	6,104	3,573	2,460	2,182	1,201	18,433	448	18,881	27	472	19,353
平成 21 年 4 月	9	373	715	426	260	225	256	2,255	33	2,288	1	13	2,301
5 月	14	671	878	830	435	451	471	3,736	80	3,816	8	261	4,077
6 月	8	283	429	260	157	201	273	1,603	46	1,649	3	75	1,724
7 月	6	149	326	181	139	82	20	897	44	941	1	20	961
8 月	10	229	603	310	205	100	0	1,447	7	1,454	0	0	1,454
9 月	8	230	481	158	236	120	0	1,225	60	1,285	1	60	1,345
10 月	10	252	492	382	382	186	104	1,798	27	1,825	0	0	1,825
11 月	10	287	418	287	257	113	0	1,362	43	1,405	2	76	1,481
12 月	6	141	339	158	51	36	0	725	18	743	1	36	779
平成 21 年度小計	81	2,615	4,681	2,992	2,122	1,514	1,124	15,048	358	15,406	17	541	15,947

* 平成20年の4～12月は前号（栽培記録第30号）に記したので省略した。

*1 定期ガイドは土・日の昼間と祝日・夜間開園に実施したガイドとグリーンフェアの平日ガイド（10月5日～9日（5日間10件84人））も含めた。

*2 申込ガイドは団体から申込みがあったガイド。 *3 大温室は熱帯スイレン温室を、フクシア温室はサボテン温室を含む。

*4 その他は、サクラ（桜観賞会（6日間6件53人）を含む）、バラ、アジサイなど特定の時期の植物案内とグリーンフェアの平日ガイドとした。

*5 樹木ウォッチングは平成21年3月までで終了し、4月から季節の花さんぽに変更した。

表 3. 例会・研修及びガイドボランティア通信一覧表

開催日	場 所	例会 及び 研修 内容	参加者数
平成 20 年 4 月～12 月小計		(内容は広島市植物公園栽培記録第 29 号に掲載)	306
平成 20 年 2 月 17 日(日)	植物公園花の進化園	花の進化園の植栽方法と植物について研修	30
2 月 22 日(日)	植物公園講堂	例会：平成 21 年度の活動計画及び研修について（案の提示）、新年度登録証・自己紹介名簿記入用紙の配付 懇親会・交流会（植物公園職員 4 名参加）	34
平成 20 年度合計			370
平成 21 年 4 月 10 日(金)	佐伯区湯来	園外研修：石ヶ谷峡の植物観察 コウヤミズキ、ショウジョウバカマ、キブシ、ゲンカイツツジ、ヤマグルマなどの観察	23
4 月 18 日(土)	植物公園講堂	例会：総会（役員紹介、規約等の確認）、平成 20 年度事業及び会計報告、平成 21 年度活動計画及び予算の承認、 7 期生の紹介、ジュニアプロジェクトについて ・ガイドボランティア通信 39 号「園外研修報告 佐伯区石ヶ谷狭」	49
5 月 17 日(日)	植物公園バラ園	バラ研修 「開花期のバラについて講習」 講師：栽培・展示課 在岡孝行 7 期生の研修を兼ね、先輩ボランティアも学習した。	20
5 月 24 日(日) 25 日(月)	植物公園栽培温室	バックヤードの栽培温室と苗圃を見学した。 講師：植物公園 職員	24
6 月 5 日(金)	東広島市	園外研修：大芝島の植物と海岸の生物観察 イチイガシ(植栽)、コバンモチ、カンザブロウノキ、フサスゲ(県内初記録)などの植物、 ケガキ、カメノテ、バフンウニ、ヤツデヒトデ、アマモなど磯の生物	12
6 月 6 日(土)	植物公園ハナショウブ園	ハナショウブ研修 「開花期のハナショウブについて講習」 講師：植物公園植物友の会 会員 三輪 昇	19
6 月 21 日(日)	植物公園講堂	例会及び研修 サマーフェアの体験教室への協力、親子植物体験教室への参加について ・研修 「ジュニア プロジェクトの実習（わくわくビンゴ）」 ・ガイドボランティア通信 40 号「園外研修報告 大芝島」（一橋賢三）	35
8 月 24 日(日)	植物公園講堂	例会 秋のグリーンフェアへの参加について、悪天候時のガイド中止判断基準設定 ・研修：韓国旅行記（植物公園 栽培・展示課 井上尚子）	38
8 月 28 日(金)	廿日市市	園外研修：廿日市市吉和のもみのき森林公園の植物観察 前日の天気予報により中止したが、自主参加となった。	15
9 月 18 日(金)	北広島町	園外研修：八幡湿原（尾崎沼）の植物観察 アズキナシ、カンボク、サワフタギ、タンナサワフタギ、オオナルコユリ、オオウラ ジロノキ、タムラソウ、ミヤコアザミ、ビッチュウフウロなどの観察	12
10 月 17 日 (土)	植物公園講堂	例会：秋のグリーンフェア参加報告と反省会、開園記念日のイベント計画について検 討 ・ガイドボランティア通信 第 41 号「園外研修 八幡湿原」（原田澄子）	33
11 月 20 日 (金)	廿日市市	園外研修：廿日市市宮島の歴史散策と植物観察 宮島のお寺などの史跡とオオモミジ、イロハカエデなど紅葉谷の紅葉、オオイタビ、 タチハコベ、オガタマノキ、イズセンリョウ、ハマクサギなどの観察	17
12 月 12 日 (土)	植物公園講堂	例会：園外観察会報告、ガイド時のマナー向上と団体ガイドの対応者の養成について、 継続確認票用紙配付 ・懇親会・交流会（忘年会を兼ねる）	40
平成 21 年度（4 月～12 月）小計			337
平成 21 年の合計			401

への協力として、前述した植物調査や標本の作製、整理を行った。

新規ガイドの募集と養成

体調不良や家庭の事情により、退会する人がいるためと会の活動を充実させるために平成 21 年 11 月に広島市の広報誌「市民と市政」、地元の新聞等を通じて新規ガイドを募集した。14 名の応募があり、平成 22 年 4 月からのガイドデビューを目指して、1 月から 3 月まで、全 5 回の養成講座を開催することとしている。

今後の計画及び課題

- ・ガイドボランティアの会と植物公園との連携を密にし、お互いの協力体制をとりながら活動を進めていく。
- ・新期に募集したガイドボランティアの中には活動開始から日が浅いため、活動ルールの不徹底や他のボランティアとなじみにくい人もいるのではと意見があるため、特に新しいボランティアには研修や懇親の機会を充実し、活動への意欲やマナーを向上してもらうことが必要と思われる。